

## 2023 年度 外部評価委員会

(大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の各任に係る事業に関する会議)

2024 年 5 月 16 日 (木)

15 時開催

北海道社会事業協会帯広看護専門学校

議題 1. 令和 5 年度学校運営目標と運営計画に関する評価、自己点検・事項評価報告書を報告

資料 1. 2023 年度 北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 重点目標 評価

資料 2. 2023 年度 自己点検・自己評価報告書

議題 2. 1 の報告に関して、学校運営状況が教育理念・目標に基づいて為されているかの議論

出席者

構成員：北海道社会事業協会 本部 看護局長 的場由紀子 様

臨床実習先責任者 帯広病院 看護部長 浜名真由美 様

司会・書記 北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 教務部長 加藤由美

議事録

当校会議室にて実施した

教務部長から、学校運営事業計画評価、自己点検・事項評価報告書を報告

報告後、議題 2 について意見交換

### 【 両委員からの質問・意見 】

委員意見：社会人基礎力の向上に向けて 3 年間取り組んでいると思うが、社会人基礎力は非常に良いと感じている。基本的な態度や看護に対する考え方・思いや学びへの姿勢があり能力が高い。就職後の 1 年目研修等見ていると自分の意見も言え、挨拶など基本的なところもできており、学校の教育理念が伝わっているのだと感じる。非常に素直でどんどん吸収していく学生が多いと感じる。学校の教育に対する姿勢は今のままで良いのではないかと思う。間違ってもいいから自分の意見を伝えようという反骨精神のようなものはもう少し欲しいところではあるが、社会人基礎力は高いと評価する。

学校：今後も社会人基礎力向上に向けて教育を続けていきたい

委員意見：教授方法について 実習に向けてまた社会人基礎力向上に向けてもコミュニケーションが苦手な学生などに OSCE のような形で、模擬患者を一般の方をお願いしている学校もあると思うが、そういうことは考えていないのか。

学校：元看護教員をお願いをしていることもあるが、できれば地域の人をお願いをしていき学校のことを地域の方に知ってもらえるといいとは考えている。

委員意見： 地域の人への教育の場にもなる。患者教育の場にもしていくことができれば看護学校としての地域役割もできる。少しずつ考えていっていいのではないかな。またそのような取り組みが学校の PR にもつながって良いのではないかな。

委員意見： 卒業後の定着について 札幌の大学ではフィードバック研修があり卒業後 1 年目等がスキルのフィードバック、2 年目も何か研修を実施していると思うが、情報によると病院に卒業生への休暇を依頼し集合しているよう。実費ではある。同期で集まることでクラス会のような意味合いもあり互いに励まし合い、また学校からの卒後サポートも継続できる。卒後研修やメンタルのサポートをしていける場として卒業後、学校ができること、利害関係がなくなったからこそできるサポートを機会としてあっていいのではないかな。

委員意見： 看護局として研修扱いで学校に行けるよう配慮はできるのではないかな。定着に向けた取り組みを考えたプログラム組んでみてほしい。

学校： 休みをもらえれば卒業生も来やすいかもしれない。学校としては夏期休暇期間が実習もなくいいかもしれない。時期・内容の検討をしていく。

委員意見： 就職後数か月経過する頃、インシデントアクシデントが起こる時期でもある。また消化しきれない現場での思いや看護のことを考えたくても「業務をしている自分」ということに直面している時期でもある。思考面、倫理的な意味合いでそれを整理してあげる時期として考え、研修をすることで卒後 1 年目の看護師の思いを臨床にフィードバックできるかもしれない。また働いてからの様々な思いを教員に伝えることで気持ちを整理できることで良い効果につながるのではないかな。また様々な情報を先生方から病院にフィードバックしてもらえれば病院側でも卒後教育についての検討にもつながっていくかもしれない。

学校： もう一度自分が看護として何をしたいかと考えられる機会 業務の話をしてしながらでもいいので、そこに自分が考える看護とは何かを一緒に考える機会を作る時間も必要かもしれない。思考面の整理をしていくなどの機会として考えていきたい。

委員意見： 国際的視野が低くなっているが何か考えているか。

学校： 今年 JICA に国際協力の話などをしてもらうよう検討している。

委員意見： 視野を広げるという意味では必要であると思う。

委員意見： 自己評価、自己点検についてですが、個人での評価の差はあるか。

学校： 10 年以上の教員 3～4 年教員でも差が出ることもある。目指す方向は一緒だが経験年数が浅い教員のほうが自己評価も厳しめかもしれない。

委員質問： 自己研鑽をどう計画しているか。教員になる前の研修後、看護師は研修プログラムあるが教員はよほど意識しないとなかなか研修に行く機会はないのではないかな。

学校：各自で行きたい研修に参加 北海道看護教育施設協議会のなかで企画している研修を各教員に行ってもらおうよう働きかけをする。地区会での研修には全員参加していく。オンライン研修は多くなり企画を増えている。ここ数年は管外に出る機会も減少していたが積極的に研修に行くよう促していきたい。

委員意見：受けてもらいたい研修のプログラムを学校計画していった方が良い。看護学校の教員は自己研鑽といったときに思考だけでなく、いつ現場に戻ってもいいようなスキル研修の場があってもいいかもしれない。

委員意見：学校運営については、受験者、入学生の獲得に向けて検討を続けて行ってほしい。

以上